

番組審議会議事録(平成23年10月11日開催)

1. 開催年月日

平成23年10月11日 午後7時～

2. 開催場所

(株)登米コミュニティエフエム 会議室

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 4名

出席委員の氏名 塚本壽、堀田菜菜江、須齋香織、佐藤寛一、

欠席委員の氏名 嶋村幸二、永浦貞志、加藤和子、奥山浄啓、

放送事業者側出席者名 斉藤恵一、佐藤万里子

4. 議題

(1) 以下の内容に関する審議

・ H@PPY MORNING の試聴・審議

(2) その他

5. 議事の概要

(1) H@PPY MORNING (10月4日放送分)を試聴してもらい審議した。

(2) その他

6. 審議内容

(1) に関して

(須齋委員) パーソナリティーが言葉を知らないことに驚いた。

(堀田委員) 何を言いたいのがよくわからない。話に内容がない。話題によってテンションが変わりすぎるのでは。自分の得意な分野になると急にテンションが上がり、聞いていて疲れる。

(堀田委員) 普段からいつも聞いていて思うが、イベントなどの話で「自分も行ってみたい」と言うばかりで、実際に行ってきたという話をあまり聞かない。行けない(行かない)なら最初からそういうことは言わない方が良く。実際に自分の経験した話をするべき。

(加藤委員)「パーソナリティー」だが同時に「キャスター」でもある。取材したり、実際に見たり聞いたりすると話にも深みが出るのでは。

(堀田委員) 最初の期待は大きかったが、1年半経っても進歩がない。他のパーソナリティーは最初こそ不安だったがぐんぐん伸びている。技術的なことだけではなく、精神的な面でも。

(加藤委員) 自分の技量に合わせた努力をし、準備時間をとるべきでは。

(加藤委員) 声が、世代によって受け入れられたり受け入れられなかったりするタイプだとは思う。ただ滑舌も良いし声色を変えたりする技量があるので、それを活かすのは良いと思う。

(塚本委員長) 基本的にアナウンスをする人間は、自分の感情など関係なく「真ん中」にいなければならない。冷静にいなければならない立場。Listen TO ME!のパーソナリティと、生放送でニュースも読むパーソナリティとでは、そもそもの立場が違う。「自分の番組」なのだからもっと努力すべき。

(堀田委員) ラジオを聴いている人は、いろいろな変化にとっても敏感だと思う。パーソナリティの声を聞いて、ホッとしたり消したくなったりする

(須齋委員) 新聞や本を読んだりして、得意分野以外の教養を広めたほうが良い。一般常識は最低限必要。

(加藤委員) ニュースを伝える身として、そのニュースを読んでいる以上、どんな角度から質問されても、わからない人にどういふことか訊かれても説明できるようでないとならないのでは。先日の震災時のような緊急の時、調べたりする手立ても時間もなく、これまでの自分の知識のみで対応しなければならぬときがあるかもしれない。

(須齋委員)「自分のもの」にしないと、伝わらない

(複数委員より) 作ったりせず、素の部分を出せばいいと思う。人間的な成長を望む。

(複数委員より) もう一度、初歩的なところを見直してみる必要があるのでは。2年目で、震災も経て自信もつき、逆に気が緩んでいるところもあるはず。

(複数委員より) 局として、リスナーからのメールに対するある程度の基準を決めても良いのでは。そういう時期に来ていると感じる。

(堀田委員) 声の大きな人(いつもメールをくれる人)の意見ばかりではない。

(複数委員より) 全戸配布のアンケートなどはできないのか? スポンサーにも力を借りて、回答してくれた人にはプレゼントをするなど、回収率を上げる工夫を。答えやすい簡単な内容で、より正確な聴取率や意見が知りたい。

(斉藤局長) 委員のみなさんの貴重なご意見に感謝。今後の番組に反映させていきたい。

(2)に関して

特になし

7. 審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置及びその年月日

社内会議にて報告(平成23年10月12日)

8. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法及び年月日

ホーム・ページにて意見の公開(平成23年10月下旬)